

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472900719	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	有限会社ばすてる		
事業所名	どんぐり庵		
所在地	(〒243-0218) 神奈川県厚木市飯山南4-22-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年9月20日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

有限会社ばすてるは、厚木市において、認知症デイ1軒、認知症対応型共同生活介護を2軒運営しております。代表は看護師で以前より認知症の方の行き場所が無い事を問題視しておりました、20年前に普通の民家を改造し認知症デイを始めましたが、大勢の中で落着きのできなかつた認知症の方が認知症デイでは落着きが見られ、職員と一緒になつて、その人らしい生活が出来る手ごたえを感じ、3年後にグループホームを始めました。当初から看取りを視野に入れての開設ですので元気な方から車椅子の方、様々な方が生活しております。ひとり一人がその人らしい生活を送れるよう私たちは行なえることを最大限に発揮していきます。「精力善用」「自他共栄」

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和4年12月3日	評価機関 評価決定日	令和5年1月2日

新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇医療と看取りに関する指針の実践

協力医療機関の医師、代表者である看護師が連携を図り、健康確認、医療受診、健康相談ができる体制にある。看取り介護を経験しており、利用者と家族に入居時に重度化指針を説明して同意を得ている。重度化した場合、医師、看護師、家族が連携して話し合い、適切な対応をしている。

【事業所が工夫している点】

◇家族には、毎月利用者の「ご様子お知らせシート」を送付し、利用者の日々の状況を報告している。利用者の血圧、脈拍、体温などの健康状態、内科医の受診日も記載し、利用者のできることで、できないことなどを含めて、職員から見た日常生活の様子も記載して、暮らしの状況を知らせ家族の安心につなげている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことをその方の状況に合わせて整えていくことを通して、いきいきとした生活を送ることができるようにと考えている。理念の考え方は職員会議の中で理解できるように話している。まだ理解できていない職員もいるので3カ月に一度は確認の場を設けていく。	・理念「利用者ができること、分かることを探し、したいことへの気持ちに寄り添うこと」と決め、玄関に掲示している。職員は、理念を職員会議で確認し、実践に反映すべく務めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、ゴミ出しや散歩で近隣の方とあいさつを交わしている。どんど焼き等の行事や定期的に地域デイサービスに参加している。また、ホームの餅つきには地域の方に参加していただきお年寄りと交流している。	・コロナ禍以前は、地元の神社への初詣出、子ども神輿の休憩場所提供、日本舞踊などのボランティアが来訪し交流していた。 ・現在はコロナ対応で中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な機会はないが、地域の人からの相談があれば気軽に応じている。入居者の生活や活動内容を載せたミニ新聞を地域や家族に配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の実地指導の時にしつこく何で6回やらないのか言われたので本年度6回行うことを約束した。順調に回数をこなしていますよ。状況等についての報告や話し合いができており防災等の指導は活用させていただいております。メンバーの方にはイベントにも参加していただいております。	・地域代表、民生委員、地域包括支援センターと市役所の職員、利用者家族をメンバーとし、2か月毎の開催を基本とし、コロナ対応で対面会議が出来ない場合は書面で運営状況を報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	厚木市の52介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場をもっている。管理者は会の事務局を担当し、市議会とも話し合いの場を設けている。厚木市と協力し人材確保や合同研修を行い、それによりサービスの質の向上に取り組んで成果を上げている。	・管理者は厚木市市民健康部介護保険課と連携しており、運営面や業務上について話し合い、相談をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	日ごろから「魔の三大ロック」物理的拘束、精神的拘束等については職員に説明している。外に出たいときは希望に沿うようにし見守りをしているが玄関の鍵は防犯のため施錠している。新しい職員が増えたためすべての職員が理解できていない。今年度はマニュアルの見直しと研修の土台作りに取り組んでいる。	「拘束禁止委員会」を3か月毎に開催し、検討・決定内容を全職員に周知している。「高齢者虐待・身体拘束マニュアル」を用いて勉強会を持ち、「身体拘束禁止」の正しい理解に努めている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会はある。事業所内で職員による不適切な言動があった場合には注意しているが、夜勤帯の職員1名の場合には定かではない。もしそのような職員がいるときには規定により解雇。今年度はマニュアルの見直しと研修の土台作りに取り組んでいる。	・高齢者虐待・身体拘束マニュアル」を用いて職員会議で「高齢者虐待防止」の正しい理解に努めている。 ・不適切な言動がある場合はその場で管理者が注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方とは連絡を取り合い信頼関係を保てるように努力をしている。職員は学ぶ機会がなく理解できていない。今後身寄りのない方が入居することも考え、勉強する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時も時間をかけ理解していただけるように説明を行っている。一方的に話すのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するように配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	言葉や文章で意見を伝えることが困難な入居者に対しては表情や態度から思いをくみ取るように努力している。入居者から運営に関する意見はない。家族とは来所時にコミュニケーションをとっている。また面談し説明、意見を聞くこともある。ご意見シートの設置、ご様子の記録送付などで関わり、意見を反映できるように努力している。	・家族の来訪時や手紙、電話などで要望を聞いて運営に反映している。 ・コロナ対応で面会制限があるが、電話連絡時や玄関での利用者との面会時に意見を聞く機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せるようにし細かいことは言わずに見守るようにしている。また提案制度を採用している。本年度から職員面談を行っている。	・毎月のユニット会議や、朝・夕の申し送りのときに職員の要望や意見を聞く機会を設けている。 ・ケアサービス向上の為の提案が多い。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より人員を多く当てるようにしている。他に土日やイベント時には職員を増員、調整し対応している。賃金面でも能力に応じて格差をつけている。休憩所の整備等も徐々に行っている。本年度から有給休暇を積極的にとるリフレッシュ休暇制度を導入している。またメンタルヘルス研修も行っている。	・就業規則に則り、ワークライフバランスを考慮して就業配置をしている。 ・有給休暇の消化、メンタルヘルス研修等を通じて、職員の働きやすい環境整備に努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと思っている。各委員会を作り職員に責任を持たせ企画立案をさせている。また、自社にて講師を呼び研修会を開催している。	・各種マニュアルを整備してあり、事業所内研修を通じて職員育成に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者については市内の事業者間の集まりなど参加し、勉強会など行っている。管理者だけでなく他の職員も参加できるように配慮している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、ケアマネージャー、介護職員などが面談しフェイスシートを作製する。職員はその情報を理解し入居者の思いや不安、要望に耳を傾け安心して生活できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分に聞き不安、要望を把握して信頼関係を深めるよう、コミュニケーションを図るように努めている。そこから得た情報を職員全員が確認しサービスを考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成者、フロア担当などが入居前に必ず本人と会い話をうかがっている。情報シートを作成しアセスメント等も事前に職員が見ることができるようにしている。入居後もかわりを持てるように積極的にコミュニケーションを図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理等日常の様々な活動を職員とともにやっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子を定期的に報告して家族に状況を知ってもらっている。季節のイベントに招待するなど家族に関わりの場を提供している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に遊びに来てもらったり手紙を送ったりする手伝いをして本人の大事にしたい関係を支えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対応で知人の訪問を制限している。 ・年賀状は本人に書いてもらっている。利用の出身地や育った場所の名物を食べ、風景や思い出話をするなどの支援に努めている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や調理、その他の家事は共同で行っている。その時に入居者同士で教え合っていることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近1年は利用終了後に関係者が訪ねてくることはなかった。施設からの連絡もしていない。今後そのような方がいらっしゃれば会いに行くなどの対応をしたいと思います。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望を訴える入居者は少ない。言葉や文章で訴えられない入居者は様子観察の結果で検討している。	・日常の会話を通して、また意見表出困難な利用者の場合は表情や仕草などから思いや意向を把握している。 ・入浴時や居室でじっくり話を聞く機会を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には情報シートから過去のことを知る。本人や家族の話で後から得た情報は追加記録している。それらは職員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録には活動内容、健康状態など個々に必要な情報を記録している。職員はそれを出勤日ごとに確認して把握している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前に個々の課題の評価や、新たな課題についてミーティングを行っている。課題によっては本人や家族と相談し計画を立てている。	・家族、医師、看護師の意見を事前把握し、モニタリング結果を参考にしてカンファレンスを行い、計画作成担当者が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は介護計画の目標に対しての評価につながる内容を記載するようにしている。計画作成者は介護職員と兼務しており日ごろの様子は把握しているので記録は確認のため活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が暮らし続ける中で必要となる多様な支援をネットやミニ込み誌等譲りますコーナーでできるだけ家族の出費をおさえる。また自力入浴が不可能になった時はリフト式入浴機を使用している。他に柔軟な頭になる職員教育。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したりミニデイに参加している。車椅子の方も参加できるよう和室への椅子持参など環境整備にも努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族に連絡し了解後受診している。結果は速やかに連絡している。入居者のかかりつけ医や希望する医療機関を受診するときは話し合い支援している。	・協力医療機関の内科医が毎週、歯科医は必要に応じて訪問診療している。 ・従来のかかりつけ医には家族が付き添い、事業所が支援することもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や排便の状況など随時、連携医療機関の看護師に相談の上健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や病院関係者に状態を聞いたり見舞いなど直接様子を見に行き、退院時の受け入れに備えている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、職員にも方針を知らせケアを行っている。	・入居時に「重度化における対応（看取り）指針と同意書」を説明し同意を得ている。重度化した場合は家族、医師、看護師と今後の方針を話し合い、適切に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修は行われている。心肺蘇生などは何度も繰り返し身体で覚える必要があるので半年に一度くらいは実践力をつけるための講習が必要。今月は正職員を中心に消防署内での講習に参加した。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は行っているが全員参加はできていない。（夜勤専門者など）全員参加の訓練が必要である。防災担当が中心になり備蓄品などの準備を行っている。	・夜間想定を含めて年2回避難訓練を実施している。緊急時の自治体との協力体制が整っている。 ・飲料水、食料、防災品等3日分をリスト化し備蓄している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方や言葉の使い方はその方の慣れ親しみによって変えている。場面によっては家族のような言葉使いをすることもある。個人情報や排泄のことは他に聞こえないようにしている。	・接遇マニュアルと研修で、職員は人格の尊重やプライバシーを理解し共有している。 ・排泄や入浴を誘導する際ににさりげなく声かけをし、利用者が気持ちよく行動できるように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買い物や掃除など入居者たちの希望を聞いて分担している。私物の買い物は本人と一緒に好きなものを選ぶ支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが強制ではなく本人の生活や健康に支障がなければ時間をずらすこともある。起床、入床時間は個々により違う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度に時間のかかる入居者も本人に任せている。ヘアブラシや鏡などを手渡し、なるべく自力で行えるようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りから調理、盛り付け、片付けまで入居者が主に行っている。男性入居者が行うこともある。	食材の調達、調理は職員が行い、利用者は準備、盛り付け、下膳を手伝っている。 ・行事食、誕生会で好みの食事を楽しめるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関してはチェック表をみながら確保している。メニュー表に基づき量や形状を個別に変えて摂取しやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人で歯磨きをしてもらい磨き残しは援助している。自らできない方はそれぞれに合った方法、用具で口腔洗浄をしている。また食事前には口腔体操を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	歩ける方も車椅子の方もトイレ排泄を促している。座位が困難な方はベッドで排泄確認をすることもある。いずれも個々の時間パターンに合わせて行っているがなかなかタイミングが合わない入居者もいる。	排泄チェック表に沿って誘導し、介助は最小限にして自立への支援をしている。 ・夜間オムツの利用者も日中はリハビリパンツで過ごし、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品や補助食品を取り入れている。マッサージをしても数日排便がないときは医療スタッフの指示により内服をしている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望や体力により2～3日に一度のペースで入浴予定日を決めている。時間も本人希望や体調を見て当日に決めている。また排泄などで身体が汚れてしまった時にはシャワー浴をしている。	・週2回を基本としているが、利用者の希望に応じており、入浴拒否の場合は無理強いせず、時間や職員を変えて支援している。 ・足が冷えやすい利用者には足浴もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも強い眠気を訴えたり、眠気が見られる場合は居室で仮眠をとってもらっている。夜間はなるべく音をたてないようにし、照明、温度湿度も気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用や副作用などの詳細について必要な時に薬票を見ることはあるが、全部を覚えられてはいない。服薬のミスはしないように保管場所や服薬方法は度々話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性には家事やシュレッダーを男性には団ボール壊しなど力仕事をしてもらっている。時には役割を交換し男性が調理に参加することもある。また歌、散歩、新聞、読書、TV等それぞれが好きなことを楽しめるよう努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は少しの散歩等も積極的に行えるように努めている。誕生日や地域のイベント等、普段行けない所へも外出している。今後は特別な日でなくても入居者本人の希望に沿って外出できるよう計画していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や気候に応じて散歩や外気浴をしている。 ・コロナ対応で制限はあるが、買い物、外食、理美容の利用等を可能な限り行っていない。 	コロナ対応で外出がままならないので、今後も継続して外気浴、事業所内歩行など体を動かして気分転換することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の現金は施設で保管し、支払いは本人ができるように支援している。個人で現金を所持している入居者は家族の承諾を得て自己支払いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の入居者以外は行えていない。毎年の年賀状は文字が書ける方は出している。時間や時期を考え実施できるようにしたい。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間ではモップで掃除をしたりゴミ捨てをしたりと入居者にとって不快や混乱を招くことはないようにできている。生活感や季節感をとり入れることもできている。	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下、階段等の共用場所は職員と一緒に掃除をしている。空調の調節は職員がしている。 ・利用者の様子の写真を掲示し、季節を感じる制作物を飾っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたい方は自室へ行かれるようにしている。入居者同士、気軽に話せるよう向かい合って過ごせるようにしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険なものは置くことができないが、家具や調度品は自宅で使っていた物を持ってきていただいている。居心地よく過ごせるように整理整頓や掃除もしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・照明、エアコン、クローゼットを備え、利用者は使い慣れた日用品を持ち込み、住み心地よい居室にしている。 ・利用者と職員が一緒になって季節に応じて衣替えをしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理などの刃物を使う作業やそうじも入居者が行い職員は見守っている。その時作業台や作業場は安全に整備をしている。もっと取り入れていきたい。		

事業所名	どんぐり庵
ユニット名	みみこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの理解を深めること、日常生活に必要なことを、その方の状況に合わせて整えていくことを通して、いきいきとした生活を送る事ができるように考えている。理念の考え方等は職員会議の中で、理解できるように話をしている。個人を尊重し、希望することあればその方に応じて実現できるよう職員間で話合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、ゴミだしや散歩で近隣の方と挨拶を交わしている。どんど焼等の行事や、定期的に地域デイサービスに参加している。また、ホームの餅つきには、地域の方に参加していただきお年寄と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的な機会はないが、地域の方からの相談があれば気軽に応じている。入居者の生活や活動内容を載せたミニ新聞を地域や家族に配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は6回開催するべく予定を立て実施している。防災等指導いただき、活用させていただいております。メンバーの方にはイベントにもお誘いして参加いただいております。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	厚木市の52施設介護事業所で会を作り市町村との話し合いの場をもっている。厚木市と協力し人材確保や、合同職員研修をおこない、それによりサービスの質の向上に取り組んで成果を上げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	日頃から「魔の三大ロック」物理的拘束、精神的拘束等については日頃より職員に説明している。外に出たい時には希望に沿うようにし見守りをしているが玄関の鍵は防犯のため施錠している。今年度はマニュアルの見直しと毎年おこなう研修の土台作りに取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で学ぶ機会を持つようにしている。職員の不適切な発言や行動があればその都度説明・注意をしている。今年度はマニュアルの見直しと毎年おこなう研修の土台作りに取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の方とは連絡を取り合い、信頼関係を保てるように努力している。制度の理解については、職員の知識不足があるため、勉強する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の時も時間をかけ理解していただけるようおこなっている。一方的に話してしまうのではなく疑問点や不明な点を確認しながら説明するようには配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見シートの設置、ご様子の記録の送付、ご家族の来所時に要望等を聞きコミュニケーションをとっている。入居者に対しては、行動、表情、態度から思いをくみ取れるよう努力している。言葉や文章で意見を伝えることが困難な入居者に対しては表情や態度から思いをくみ取るように努力している。家族とは来所時に雑談・コミュニケーションをとり、また面談し説明・意見を聞くこともある。ご意見シートの設置、ご様子の記録送付などがかかわり、意見を反映できるように、努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時話しやすい雰囲気や体制を作るように心掛けている。基本的なことは伝えているが日ごろのケアに関してはそれぞれの裁量に任せるようにし細かいことは言わずに見守るようにしている。また、提案制度を作り採用している。本年度から職員面談をおこなっている		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日ごろより人員を多く当てるようにし、他に土日やイベント時には職員を増員・調整し対応している。賃金面で能力に応じて格差を付け、休憩所の整備、有給休暇取得をすすめる、メンタルヘルス研修の実施、など環境を整えている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の向上のためにも力を入れたいと思っている。各委員会を作り職員が主体的に企画立案できるような時間を設けている。また、自社にて講師を呼び研修会を開催したり、実践者研修への参加を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相互研修に参加したり、地域での事業所同士の集まりなどにも積極的に参加している。管理者だけでなくほかの職員も参加できるように配慮している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成者、フロア担当者などが入居前に必ず本人と会い話をうかがっている。情報シートを作成しアセスメント等も事前に職員が見ることができるようにしている。入居後もかわりを持てるように積極的にコミュニケーションをはかっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期においては管理者・計画作成者からの情報を参考にすることもある。私たちはまず家族の訴えに耳を傾けることを大切にし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申込前に必ず、本人と家族に見学に来てもらい、ここでの生活をイメージできるようにしている。身体面・精神面からGHが最適な生活の場所になるのかアセスメントし、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は調理や洗濯、掃除等の家事仕事を入居者に教えてもらったり、一緒に行ったりしている。また、文化や習慣について入居者に教えてもらうことが多い。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な物を入居者と一緒に家族が買いに行ったり、もってきてもらったりしている。家族にアドバイスをもらったり、誕生日には声をかけ、お祝いにきてもらうこともある。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日やイベント時には、こちらから連絡し、ご家族や親戚の方に来てもらえるよう支援している。また、実家に帰る等の旅行を家族とされることもある。散歩やゴミ捨て等で顔なじみになり、近隣の方とあいさつをする関係ができていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握するよう努めている。調理時にできることを分担して行なったり、他入居者の居室や共有スペースの掃除を行なったり、協力しあえる環境作りを行なっている。入居者同士の関係に気をつけ席をかえている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までその様な入居者がいらっしゃいませんでしたが、今後その様な方がいらっしゃった時は会いに行く等対応したいと思います。死亡による退去の場合、お盆にお線香を職員があげに行ったりしている。必要に応じて、相談があれば、受け入れる様考えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から一人ひとりがどのような暮らしを望んでいるのかを様々な場面から把握し、1日の流れの中で、希望を、取り入れている。意思疎通が困難な方でも今までの生活歴からくみとるよう配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートを基に、本人や家族とコミュニケーションを図り、知るよう努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ、調理や洗濯、そうじ、買いもの等に関わってもらい、その中でできることを把握するようにしている。また、好んでしたいことや得意なことも把握する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者がケアを提供したり、職員と直接意見交換し、それらの情報をもとに介護計画を作成している。また月に一回あるミーティングでモニタリングを全員で行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、業務日誌とともに情報共有できるようにしている。ミーティングや申し送りでも情報共有に努め、現在の状態を知り介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の状態や今後の希望を踏まえ、ニーズに応じたサービス導入を心掛けている。看取りをさせていただく家庭で、エアマットをホームで購入したり、ベッド購入の際も「譲りますコーナー」等を利用したり様々なことを考え実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のかたがたと交流を持つ場として、ミニデイへの参加や公民館祭への作品出品等取り組んでいる。また、施設のイベントでは地域の方々も参加して頂けるものも設けている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関へ行く際は職員が付き添い、家族には受診前、受診後と連絡を入れ、状況をお伝えしている。それぞれのかかりつけ医や希望する医療機関に受診する時は、そのむね話し合い支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化、体調不良の際は看護師の指示を仰ぎ対応している。また異変が見つかった際は24時間連絡を取ることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に入院される場合、日頃より受診、往診を通して、接点を持ち、情報交換はスムーズに行なえていると思う。他医療機関へ入院する際は介護サマリー等の準備を行い退院時は担当医、看護師と話し合いの場を設けたり、家族と相談し、体制を整え、受け入れている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ミーティングなどで話題には上がり話し合いがある。 プリントなどでも方針は目を通してしている。日常のコミュニケーションをスタッフがとる上で、本人とご家族から意向をくみ取り、情報共有を行なっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異食や応急手当について定期的に学ぶ機会はあるが覚えているのは半分にも満たない。今後、自治体の研修への参加を行なっていく予定。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震災時は備蓄品や非常時の動きなど意識していたが今はあまり把握していない。災害を想定した訓練は全員は参加していない。現在、担当者がマニュアルを作成しているので、でき次第、シミュレーションを行なう予定。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり異なる人格をもっているため、それにあった対応を出来るように心がけている。日常の家事をお願いしたり、プライバシーに関わる状況のことも、その方に合わせていねいな対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買いものや散歩など生活の様々場面で、希望が言えるよう働きかけたり、選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃からその方の得意なことやできることを中心に1日の流れを作っている。その日の気分や体調にも配慮し、都度対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、服の色や、着方など、配慮している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から食事作りは入居者とともにこなしている。食べやすく、おいしい食事ができるようにその方に合わせた食事形態をとることや、メニューを変更するなど工夫している。外食や行事食などの日も設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1ヶ月分のメニュー表を栄養バランスを考え作成している。持病のある方は糖分ひかえめ、塩分ひかえめ等、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。自己記録表を作成し、個々人の1日水分摂取量を把握し摂った水分量を1日分合算し足りているかチェックしながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口をゆすいだり、清拭等で、口腔内の状態によって、清潔にしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の毎日の記録を記入。個々人の排泄のパターン（どれくらいの間隔で排泄があるか）をつかみトイレ案内を行い排泄の失敗を減らすようにしている。パットやリハパンの使用量を減らすよう心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による影響（食欲不振、不機嫌、血圧上昇）を把握し、便秘予防を行なっている。繊維分の多い食物を摂ってもらったり炊飯時粉かんてん（便秘解消）をふり入れ炊いている。又、お腹のマッサージをし排便をうながす。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定を作成しているが、他、その日の活動量や、入居者様の健康状態を配慮して、入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温などそれぞれに合わせて調整。寝て頂きたい理想の時間はあるが大してこだわらず、その日の体調や気分で適切かと思う時間に休息して頂いてる。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録ファイルに薬処方箋がとじられており、薬に疑問がある時、すぐに取り出せるようにしてある。投薬により副作用があった時、すぐ担当医に知らせ対処してもらう。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事はそれぞれ得意な事を出来る範囲でして頂いています。中には「自分はこの仕事を任されている」と意識して取り組まれる入居者もいらっしゃる。			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や日常の買い物は、体調や天候を考慮しながらなるべく一日一度は戸外に出かけられる様努めている。又、お誕生会などでは、行きたい所を希望して頂きほぼ希望通り外出しています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使える方に関しては同行し日常着を選んだりお茶わん等も好きな物を購入して頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お花見のスナップ写真等を親しい方に手紙と、送付したり年賀状を手書きをし送付をしています。手紙の便せん選びもお店で楽しく選んで頂いています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレのドアには標示をはりわかりやすくしている。居室や共用スペースに湿度計を置き、必要な時は加湿する等、室内温度と共に気を配っている。季節に合った壁飾りを入居者と一緒に作り飾っている。入居者の好むテレビ番組を流しているが食事の時は集中できるよう消している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや他入居者の動きが目に入り不穏になってしまう場合は、テーブル上に衝立てを置き、視界を遮り落ち着ける工夫をしている。壁際にソファを置き、誰でも座れる様な環境にしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が生活に必要な家具や寝具等は家族に用意して頂き、その他に必要な物があつた場合は、相談をし、届けて頂くか、外出可能な入居者は外出をし一緒に商品を選び購入している。お誕生日にプレゼントした色紙やご家族の写真等を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理が出来る方は、共に台所に立ち食事を作る。そうじが出来る方へは、その方に合った用具を使い居室や共用スペースのそうじをして頂いている。自由に行き来出来るように歩行の妨げにならない家具の配置をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 どんぐり庵 みみお

作成日 令和4年9月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	まだ理解できていない職員もいるので3か月に一度は確認の場を設けていく。	職員全員が理念について理解することができる。		3か月
2	35	避難訓練は行っているが全員参加はできていない。(夜勤専門者など) 全員参加の訓練が必要である。	全員参加の避難訓練を行うことができる。		6か月
3	35	震災時の動きを職員が把握しておらず、訓練には職員全員は参加していない。	震災時の動きを職員が把握し、訓練に全職員が参加する。		6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

目 標 達 成 計 画

事業所名 どんぐり庵 みみこ

作成日 令和4年9月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族との話し合いを把握できていない。	入居者の終末期に、本人と家族から意向をくみ取った支援を行うことができる。		3ヶ月
2	35	震災時の動きを職員が把握しておらず、訓練には職員全員は参加していない。	震災時の動きを職員が把握し、訓練に全職員が参加する。		6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。